

競 技 注 意 事 項

本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

また、新型コロナウイルスへの対応については、十分注意し、参加すること。

1 練習について

- ・練習時の順番待ちをする際は、他の選手との距離を十分取ること。
- ・用具の共有は極力避けること。

練習は、競技開始までのメイン競技場、補助競技場及び雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。投てき競技（円盤投・ハンマー投・やり投）の練習については、多目的広場を使用する。砲丸投の練習は、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う。使用の際は係員の指示によって行う。

（補助競技場の使用について）

レーンの使用については以下の通りである。

- ・1～2レーンは、周回練習のみ使用可とする。ただし、1レーンはトライアル、2レーンはジョグ練習とする。（集団ジョグは不可。）
- ・3～4レーンは、短距離練習のみ使用可とする。
- ・ブロックを使用してのスタート練習は、多目的広場側直走路5～6レーンのみとする。
- ・多目的広場側直走路9レーンは、女子100mH、11レーンは、男子110mHとする。
- ・第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。
- ・テント等を設営しての独占的な使用をしない。
- ・メディシンボールやミニハードル等、競技場備え付けの用具以外は使用禁止とする。

（雨天練習場の使用について）

- ・ピストルの使用は禁止する。
- ・入場は、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
- ・シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ・ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動き作り程度の練習は行ってもよい。それ以外は補助競技場で行うこと。
- ・ウォーキング・ジョギング等は左回りとし、逆走はしない。
- ・ハードル・スターティングブロックは使用できない。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。また、スパイクの本数は原則として11本以内とする。

3 アスリートビブスについて

- ・アスリートビブスは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手はどちらか一方でもよい。また今年度については、旧サイズ（ナンバーカード様式）のものを使用してもよい。
- ・トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右につけること。
- ・3000m以上の種目と4×400mRの第2、第3走者は、別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードについては、招集所にて配布する。

4 選手招集について

① 選手招集場所は第2ゲート付近とする。

② 選手招集時間は下記のとおりとする。（招集時刻に遅れた選手は棄権とみなす）

トラック競技（予選・準決勝）		トラック競技（決勝）		フィールド競技	
開始	完了	開始	完了	開始	完了
30分前	20分前	25分前	15分前	40分前	30分前

*ただし、棒高跳については、60分前に現地で招集を行う。

*男子走幅跳については、50分前招集完了とする。

③ リレーのオーダー用紙は、招集完了時刻の1時間前までに提出すること。なお、決勝においてもオーダーの変更の有無にかかわらず、予選に準じて提出すること。

④ 混成競技における招集は、第1日目、2日目とも第1種目の該時刻に招集所で実施す

- る。第2種目以降は該当種目の招集完了時刻に合わせて現地で最終コールを実施する。
⑤ 2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出ること。

5 競技について

- ① 競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ② その競技をする選手以外は、トラック及びフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③ 各レースの不正スタートは1回目から全て失格とする。(ただし、混成競技は別規則)
- ④ スターターの合図は、英語とする。(「On your marks」、「Set」)
- ⑤ 短距離走では、選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑥ トラック競技の次ラウンド進出は着順優先とし、各組上位者のみとする。
プラス進出者の決定で同記録者が出た場合は、判定写真を拡大し細部(電気時計 1/1000)まで読み取り着差判定をする。その最下位で同記録者が出た場合、ハードルを含む800mまでは、レーンに余裕がある限り次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕がない場合は抽選して決定する。1500m以上の同記録者は次のラウンドに進出できる。
- ⑦ 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- ⑧ レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑨ 競技場内での跳躍・投てき競技の練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑩ 棒高跳について 競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の種目に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。
- ⑪ 走高跳・棒高跳のバーの上げ方(ただし、天候等により変更あり)

		練習								以降
走高跳	男子	155	155	160	165	170	175	178	181	3 cm刻み
	男混	138	141	144	147	150	153	156	159	3 cm刻み
	女子	129	129	134	139	144	147	150	153	3 cm刻み
	女混	114	117	120	123	126	129	132	135	3 cm刻み
棒高跳	男子	250	260	280	300	310	320	330	340	10 cm刻み
	女子	190	200	210	220	230	240	250	260	10 cm刻み

- ⑫ 三段跳の踏み切り板の位置は、砂場から下記の通りに設置する。
男子：11m00、女子：9m00
- ⑬ 4×100mリレーのマーカーの使用は個人の物を認めるが、1か所のみとする。使用したマーカーはそのチームで処理する。
- ⑭ 4×400mリレーの第3・第4走者の待機順は、200mスタート地点を通過した順序とし、それ以後いかに順序が入れ替わろうとも変えることはできない。
- ⑮ 男子5000mW・女子5000mWについては下記の時間を超えて最終周回に入らない。越えた場合は競技を打ち切る。
男子5000mW：35分、女子5000mW：40分
- ⑯ 携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。コーチエリアからコーチの持つ映像を見せることはできる。ただし、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。
- ⑰ 助力については、競技場内での助力は禁止とするが、スタンドからの助言については、競技運営並びに他の競技者の競技に妨げにならない範囲で認めるものとする。ただし、文書をもって連絡することや、当該競技場所を勝手に離れることはできない。

6 競技用具について

- ① 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし棒高跳用ポール・やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検査は競技開始60分前に招集所にて実施する。
- ② 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいならない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：1500m及び棒高跳・投てき競技

第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技及び走高跳

第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技及び走幅跳、三段跳

- 8 表彰
 ①個人表彰は1位、2位、3位に賞状を授与する。
 ②団体表彰は1位、2位、3位に賞状を授与する。
 表彰式は行わない。賞状ができ次第中央ロビーの机の上に置いておくので、各自で受け取ること。
- 9 得点
 得点は、1位8点・・・8位1点とする。
- 10 その他
 ① やむを得ず棄権をするときは、競技者係まで必ず届け出ること。
 ② 救急・救護について、応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、メインスタンド下中央付近の医務室に連絡すること。
 ③ 記録は競技終了後、大型映像で表示します。競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行いません。なお、記録の速報は愛媛陸協 HP から確認できます。

《 補 助 員 割 当 表 》

学校名	人数	部 署	準 備 及 び 片 づ け
松山東	8	記録・番組編成	記録関係全般・番組編成
松山西	8	用器具	用器具全般
松山南	6	投てき全般	投擲の囲い・ラインテープ・ペグ・記録表示板
松山北	10	競技者・風力・練習会	選手係器具・机・椅子・黒板・練習場用器具全般
松山商業	8	練習場	練習場用器具全般
松山工業	6	走幅跳・三段跳	砂場掘り起こし・器具・記録表示板
松山中央	8	投てき・競歩	投てき・競歩種目の審判補助
伊予農業	8	用器具	用器具全般
東 温	8	走幅跳・三段跳	砂場掘り起こし・器具・記録表示板
新 田	10	棒高跳・走高跳・用器	棒高跳マット・スタンド・バー・記録表示板・用器具
済 美	10	スタート・出発・用器	スタート器具・スタブロー・レーンナンバー・用器具
済美平成	4	投てき全般	投擲の囲い・ラインテープ・ペグ・記録表示板
聖カ学園	8	表彰・庶務	表彰台・国旗・大会旗の掲揚・庶務係補助
愛大附属	4	走高跳	走高跳マット・スタンド・バー・記録表示板

《 連 絡 事 項 》

本大会で、8位以内の入賞者（ただし、混成競技は上位6名）に、県大会出場権を与える。県大会への出場権を獲得した学校は、愛媛陸上競技協会ホームページから県総体申込用紙をダウンロードし、競技会申込一覧及び出場認知書を作成してください。なお、参加者の予選記録を必ず入力してください。

- (1) 作成した競技会申込一覧及び出場認知書（申込ファイル）を
5月6日（金）17：00必着で 聖カタリナ高校 向井裕紀弘先生
y.mukai@catalina.ed.jpに送信してください。

- (2) 競技会申込一覧及び出場認知書（申込ファイル）をプリントアウトしたものを
5月10日（月）15：00必着で県高体連事務局へ送付してください。
 <問合せ> 〒790-0826松山市文京町4-1
 松山北高校内 石丸 皇士
 (Tel 089-925-2161)

※データ入力の際、参加者及びリレーオーダーの変更等、必ず確認してください。